



2025年1月1日
日鉄エンジニアリング(株)
北九州技術センター

2025年 北九州技術センター安全衛生管理方針

I. 基本方針

1. 災害ゼロの追求 2. 安全文化の醸成 3. 安全指導の強化 4. 健康で働きやすい職場の実現

II. スローガン

『一人ひとりが危険の排除、しない！させない！危険な作業』

III. 重点目標

- | | | | |
|------|------------------|------|-----------------------|
| 1)安全 | (1)重大災害 「ゼロ」 | 2)衛生 | (1)職業性疾病の発生 「ゼロ」 |
| | (2)休業災害 「ゼロ」(*1) | | (2)健康診断による有所見率(*2)の低減 |
| | (3)墜落災害 「ゼロ」 | | 「50%以下」 |
- *1. 全社目標 休業災害度数率「0.2以下」
*2. 有所見率:定期健康診断総合判定 M1,M2,M3 の方の割合

IV. 重点管理方針および重点活動事項

1. 安全マネジメント力の強化

- (1) 管理部門は役割を明確にし、各々での安全マネジメント(PDCA)を実行推進(特にC・Aを強化)。
- (2) 管理者は、計画時における作業手順、作業要領やRA結果を周知徹底し災害リスクを低減する。実行時においては、RA結果・KY記載事項の順守状況を含め、正しい手順および適切な設備機器で安全に作業が行われているかを自ら現地で確認。
- (3) 管理者は、経験の浅い担当者に対し、不安全行動防止に向けた安全感性教育・指導等(安全対話、類災事例検討会等)を実行推進。
- (4) 安全コミュニケーション(対話・寄り添い・思いやり)を通じた安全管理マネジメントの推進。
- (5) 当社担当者が自ら実施する試験・試運転や当社発注工事においても、安全確認会議を実施し、作業手順、作業要領やRA結果を確認し災害リスクを低減する。

2. 再発防止対策の確実な実行と点検

- (1) 過去災害(災害風化防止イラスト、SAGUR等)を活用した再発防止対策(安全活動に対する活用促進)。
- (2) 再発防止対策は「人」「物」「管理」に係る原因を深掘りし的確な対策を立案。実行状況を確認し、フォローアップを実施。
- (3) 再発防止対策は広く情報共有しRA・KY活動に展開・浸透させる。

3. 墜落転落・接触災害、有機溶剤中毒・酸欠災害防止は重点課題とする

- (1) 高所作業、狭隘・密閉空間作業、重機作業は重点作業として位置づけ、工事計画の安全審査は必須とする。入念に災害防止対策を策定する。
- (2) 災害リスクの高い開口部設備の取り扱いや、コンベア等の回転機器を取り扱う作業においては、安全対策や作業手順の実施状況を確認する。化学物質の取り扱いに際しては、事前にSDSを入手し、RAを実施する。SDSとRA結果は作業を行う担当者までの周知を徹底する。
- (3) 墜落制止用器具の使用や親綱等設置の基本ルールは根気強い指導を継続。

4. 新規入場者・未熟練者・高齢者の災害防止

- (1) 管理者は安全パトロールや現場巡視にて作業配置・作業状況を確認し、注意喚起や安全指導を率先垂範。
- (2) 声掛けによる相互啓発活動を継続(特に経験の浅い担当者には積極的に！)。
- (3) 不慣れな担当者(キャリア採用者、派遣社員等)に対しては業務開始時に安全教育を丁寧に行う。
- (4) 通勤時・移動時の転倒災害防止、ながらスマホ・あるきスマホ防止の注意喚起・啓発活動の継続。

5. 社員の健康維持増進活動の推進

- (1) 心とからだの健康維持増進活動に積極的に取り組み健康で働きやすい職場を実現。衛生啓蒙活動(健康フェア、救急法講習会等)の継続実施。
- (2) 働き方改革の推進(時間外労働上限規制、超過ゼロへの指導)。
- (3) 海外勤務者に対する安全と健康管理に関する支援(一人危険予知の実施徹底(「危険(かもしれない)予知シート」の活用)、健康調査票の活用(赴任 2ヶ月後に保健師による体調確認を実施))
- (4) 職場における4S(整理・整頓・清掃・清潔)活動の推進
- (5) 交通事故の注意喚起・啓発活動の継続。